

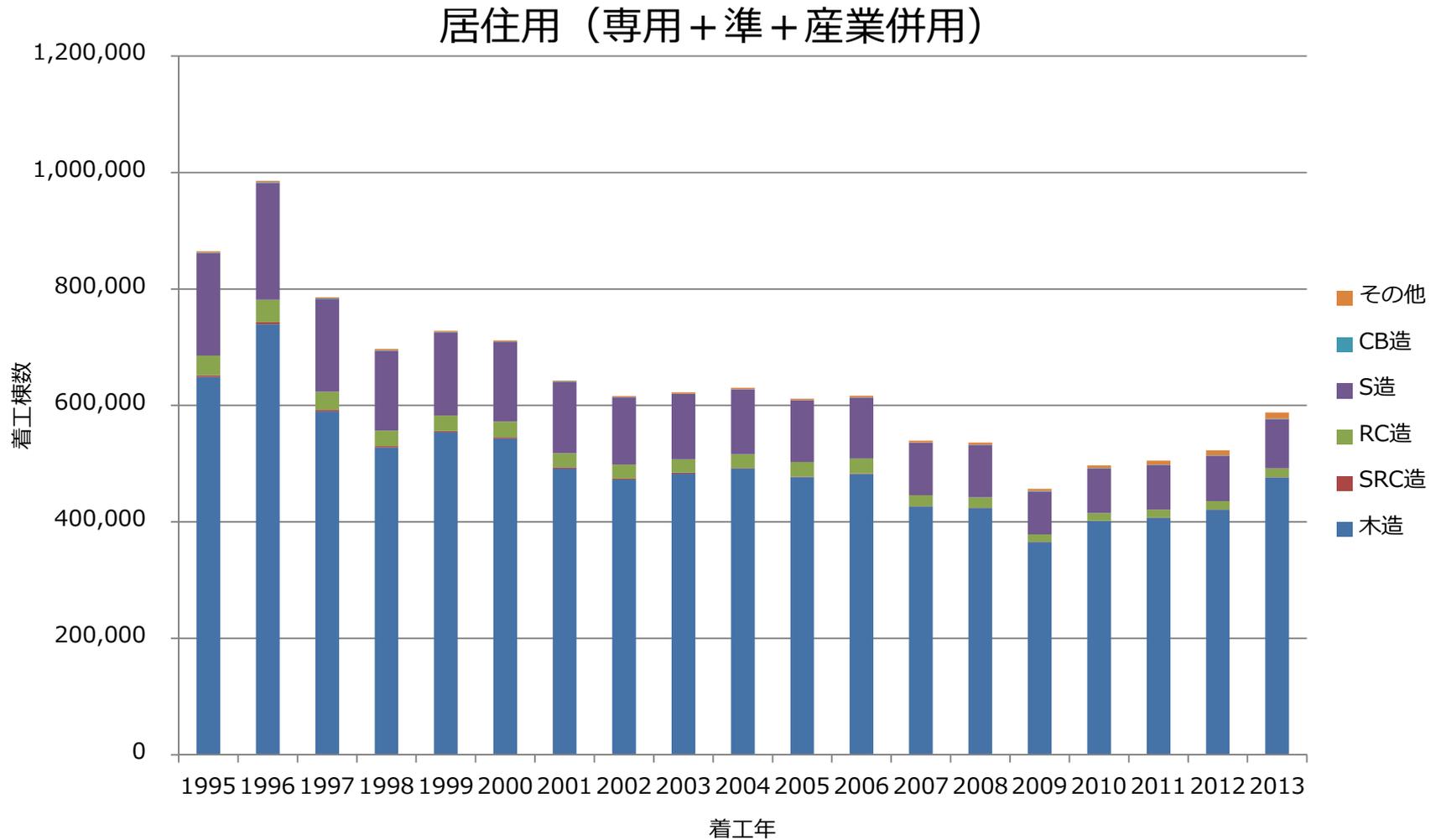
# 木材利用に必要なこと

－ 建築の視点から －

(株)ドット・コーポレーション 平野陽子

マクロな視点から  
建築における木材の利用量

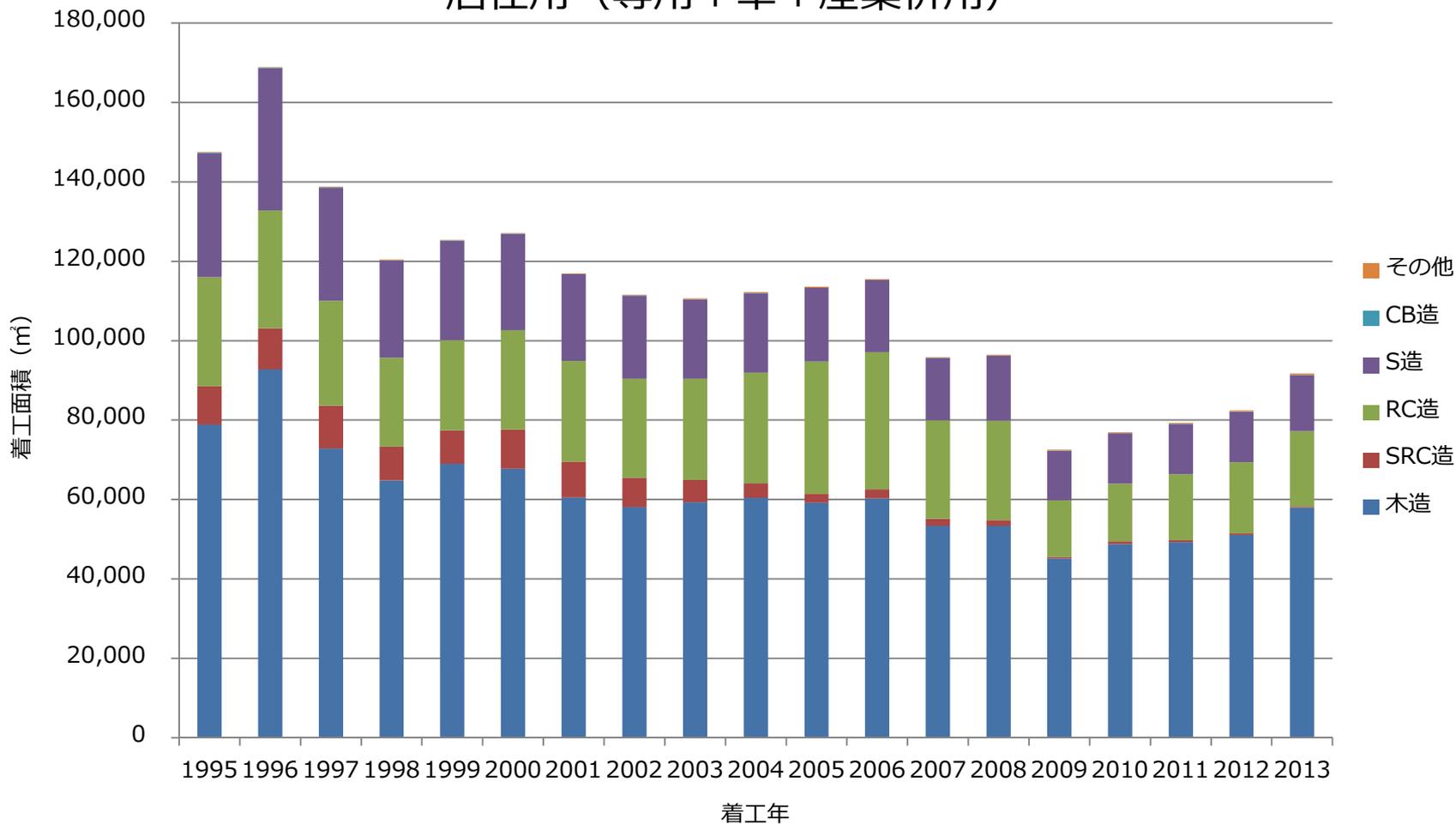
# 木造の住居用建築物の着工棟数



出典：建築統計年報（国土交通省）より作成

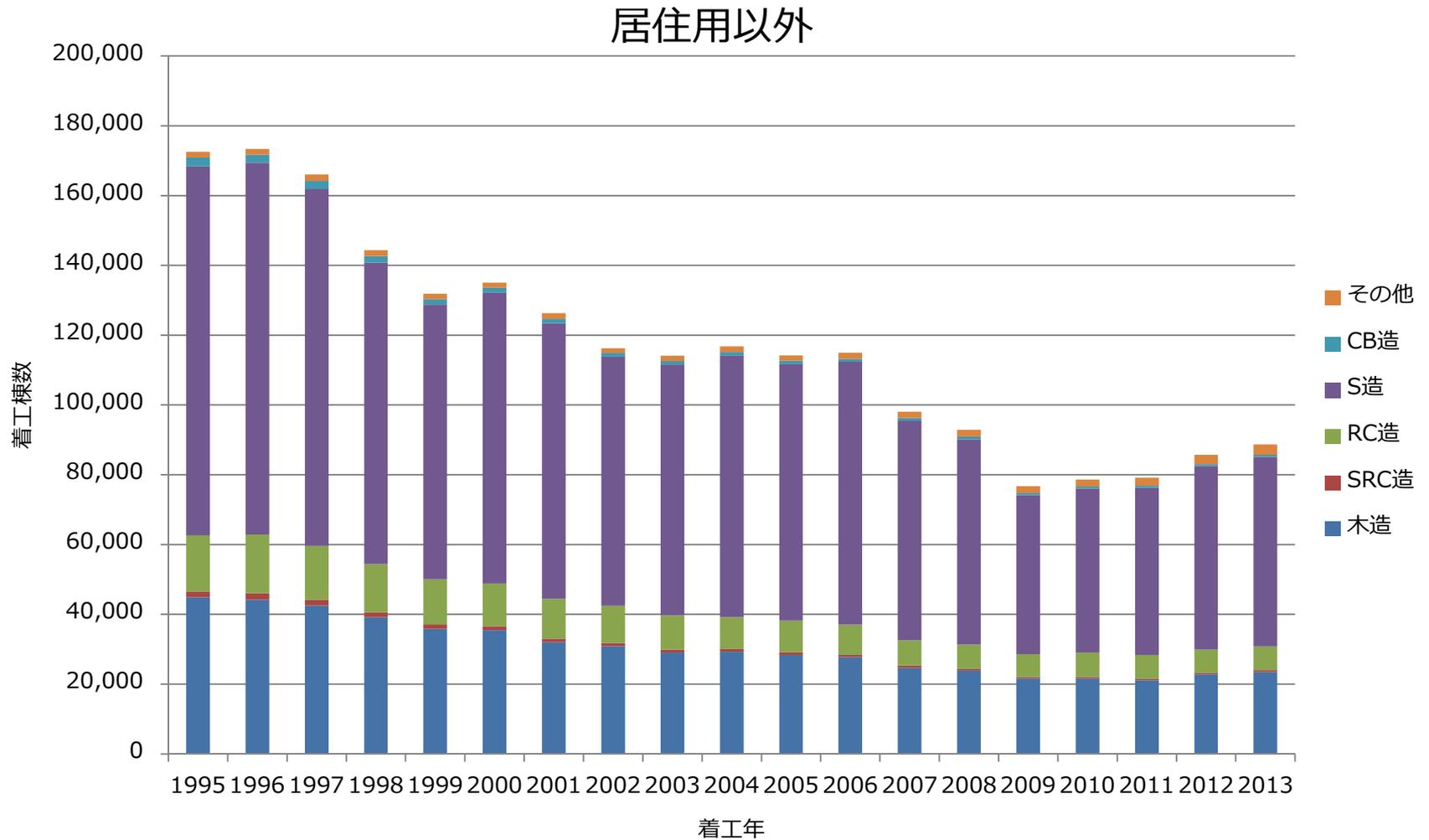
# 木造の住居用建築物の着工面積

居住用（専用＋準＋産業併用）



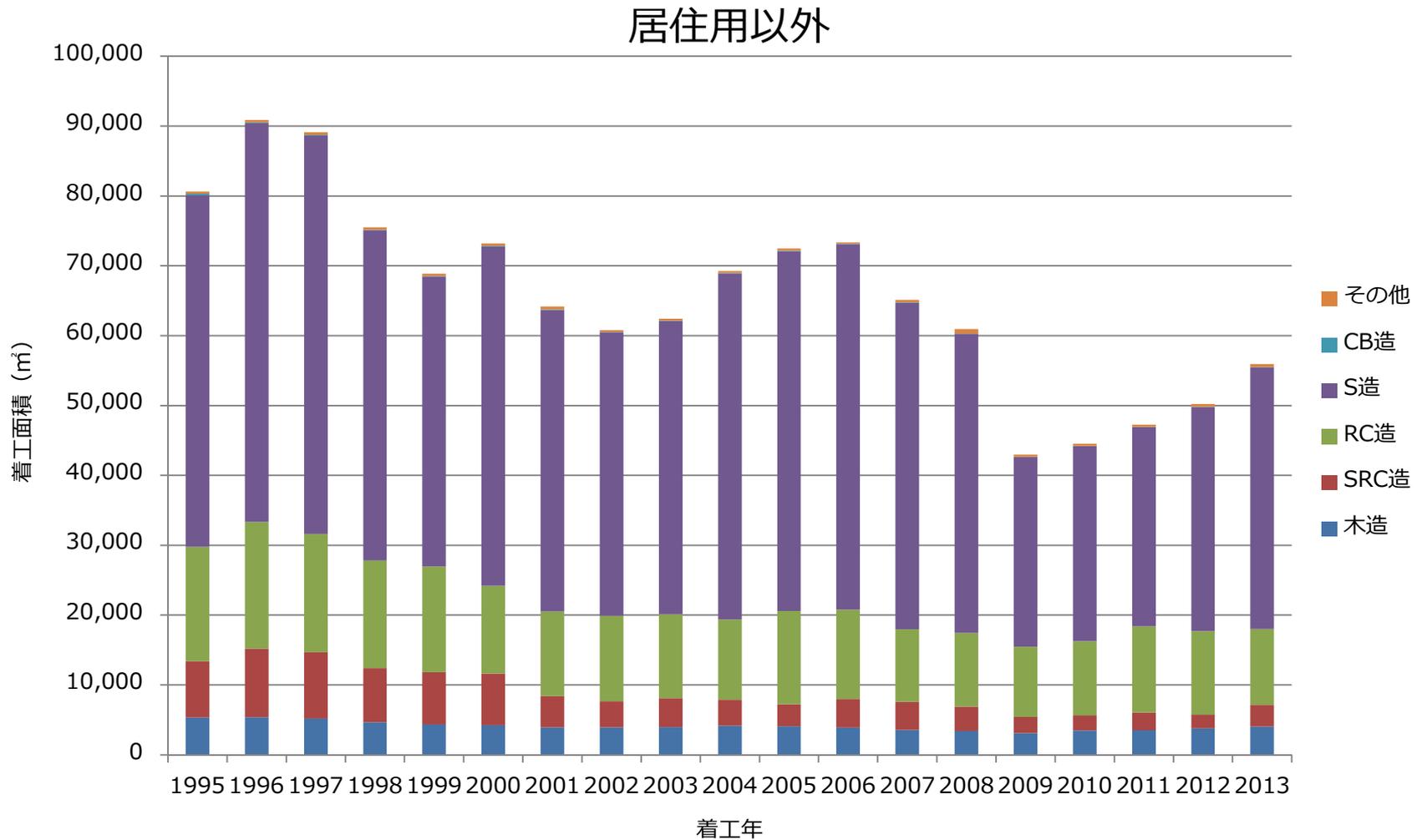
出典：建築統計年報（国土交通省）より作成

# 木造の住居用以外の建築物の着工棟数



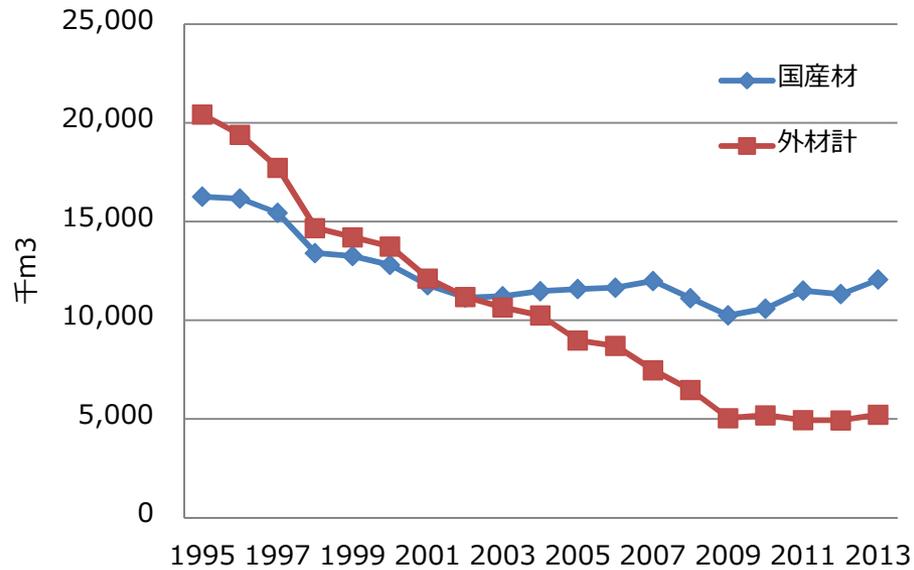
出典：建築統計年報（国土交通省）より作成

# 木造の住居用以外の建築物の着工面積

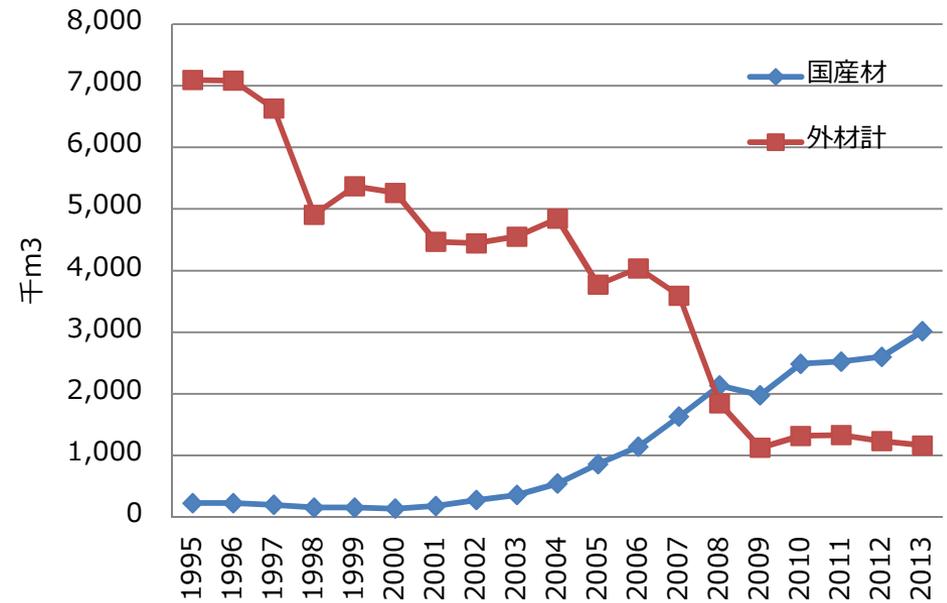


# 素材入荷量

## 製材用素材入荷量

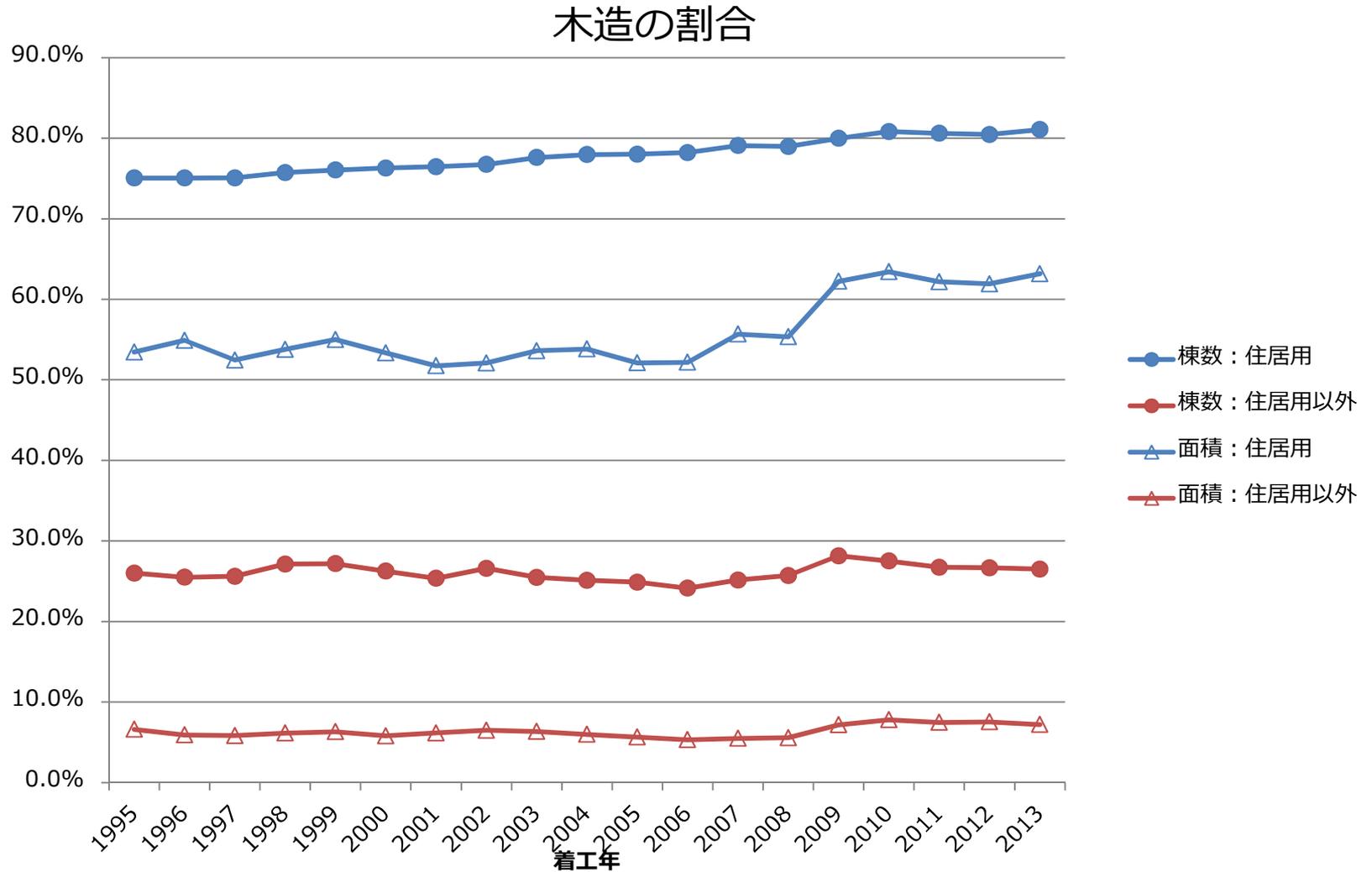


## 合板用素材入荷量

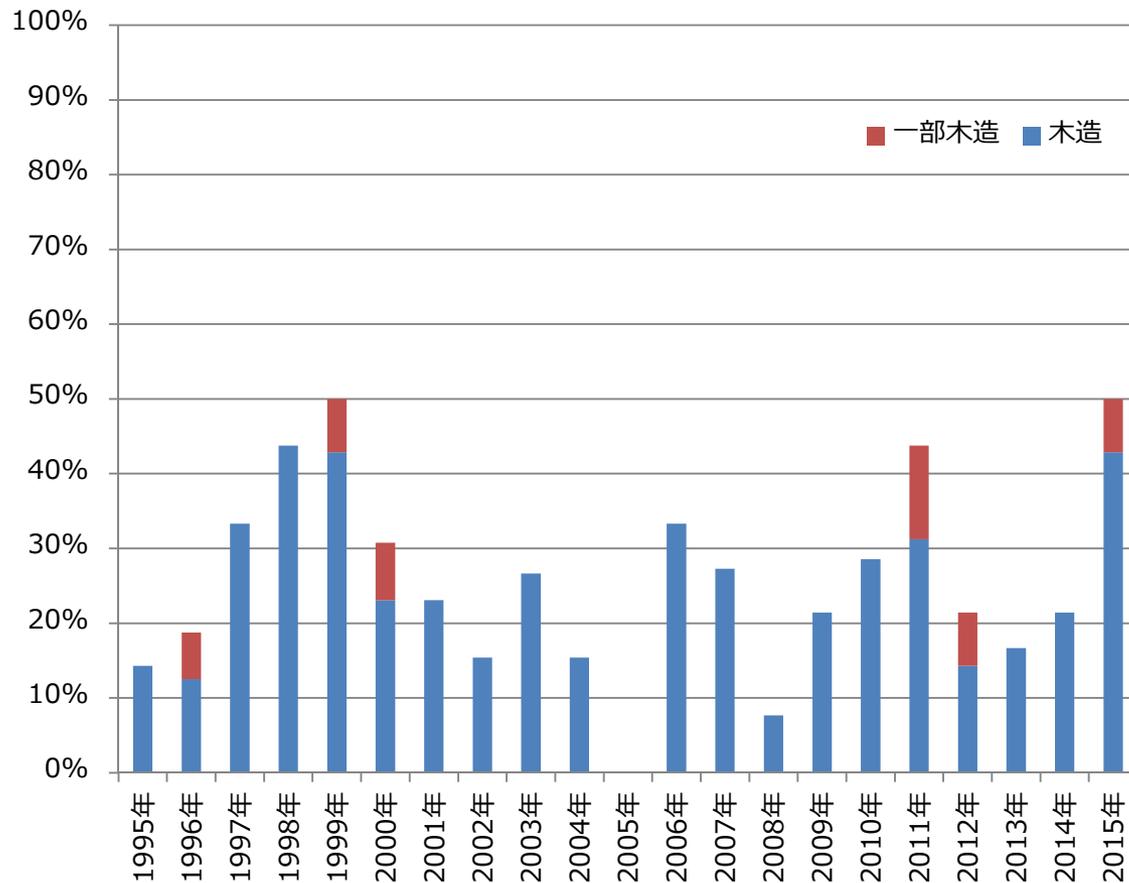


出典：木材需給報告書（農林水産省）より作成

# 木造の割合



# 日本建築学会作品賞・選奨での 木造建築物の割合



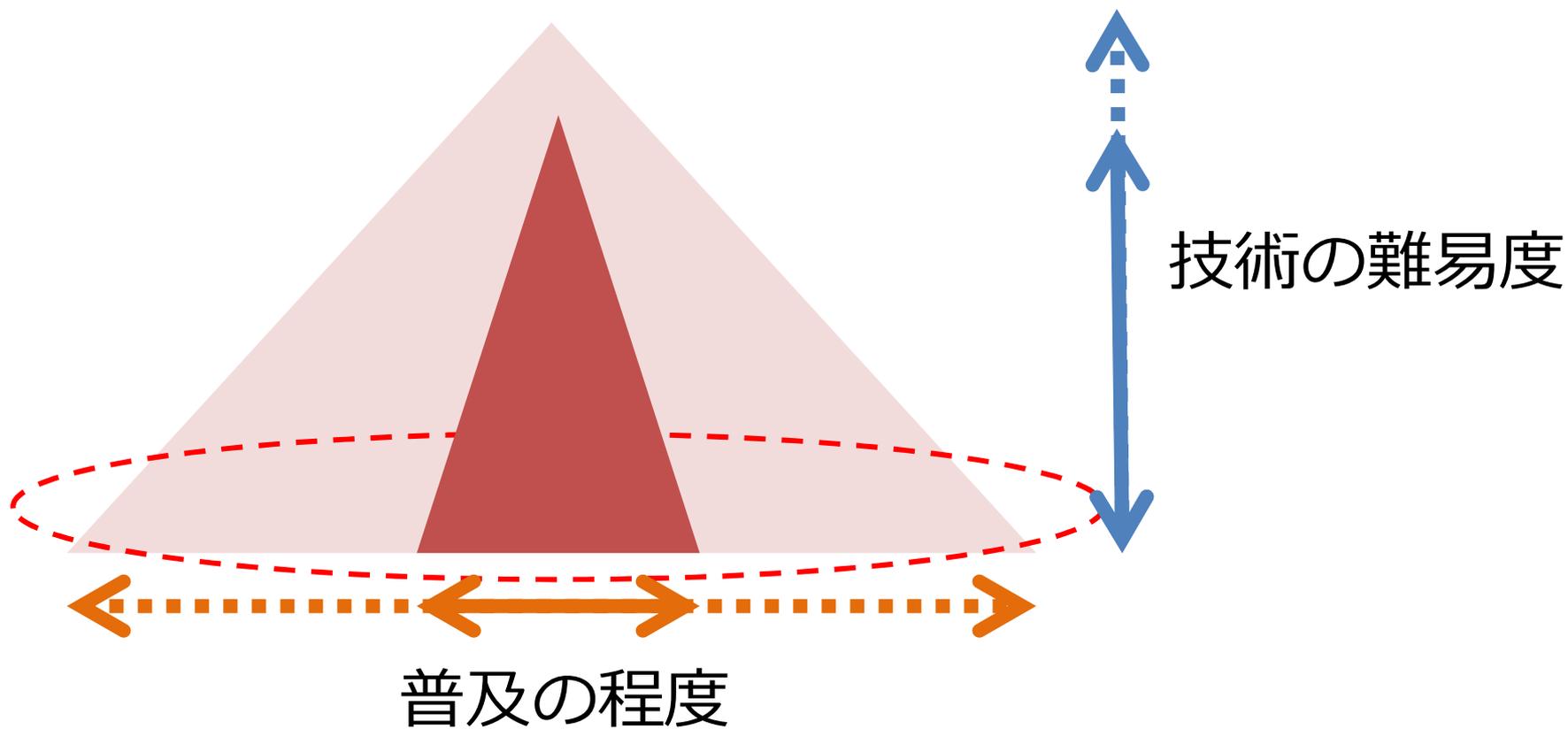
	全体	木造	一部木造	木造計	割合
1995年	14	2	0	2	14%
1996年	16	2	1	3	19%
1997年	15	5	0	5	33%
1998年	16	7	0	7	44%
1999年	14	6	1	7	50%
2000年	13	3	1	4	31%
2001年	13	3	0	3	23%
2002年	13	2	0	2	15%
2003年	15	4	0	4	27%
2004年	13	2	0	2	15%
2005年	13	0	0	0	0%
2006年	15	5	0	5	33%
2007年	11	3	0	3	27%
2008年	13	1	0	1	8%
2009年	14	3	0	3	21%
2010年	14	4	0	4	29%
2011年	16	5	2	7	44%
2012年	14	2	1	3	21%
2013年	12	2	0	2	17%
2014年	14	3	0	3	21%
2015年	14	6	1	7	50%

出典：日本建築学会HPおよび「建築雑誌」より作成

# 建築における木材利用を 考える上での枠組み

	居住用（住宅）	居住用以外（非住宅）
新築	<p>人口は減る→着工数は確実に減る</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 木材をより多く使う構法・仕様</li><li>・ 木材の付加価値を高める使い方</li></ul>	<p>代替できる規模の建築物は存在する 木材利用への認識も広がってきた 新しい技術がどんどん開発される</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 裾野を広げる方策 → ？</li></ul>
既存	<p>今後のメインになっていくか 木造住宅がメインターゲット</p> <p>RC造マンションをターゲットに内 装木質化が可能</p>	<p>RC造 S造の蓄積量が圧倒的 これらをターゲットにした内装木質 化のリフォームが可能</p>

# 木造建築技術の普及イメージ

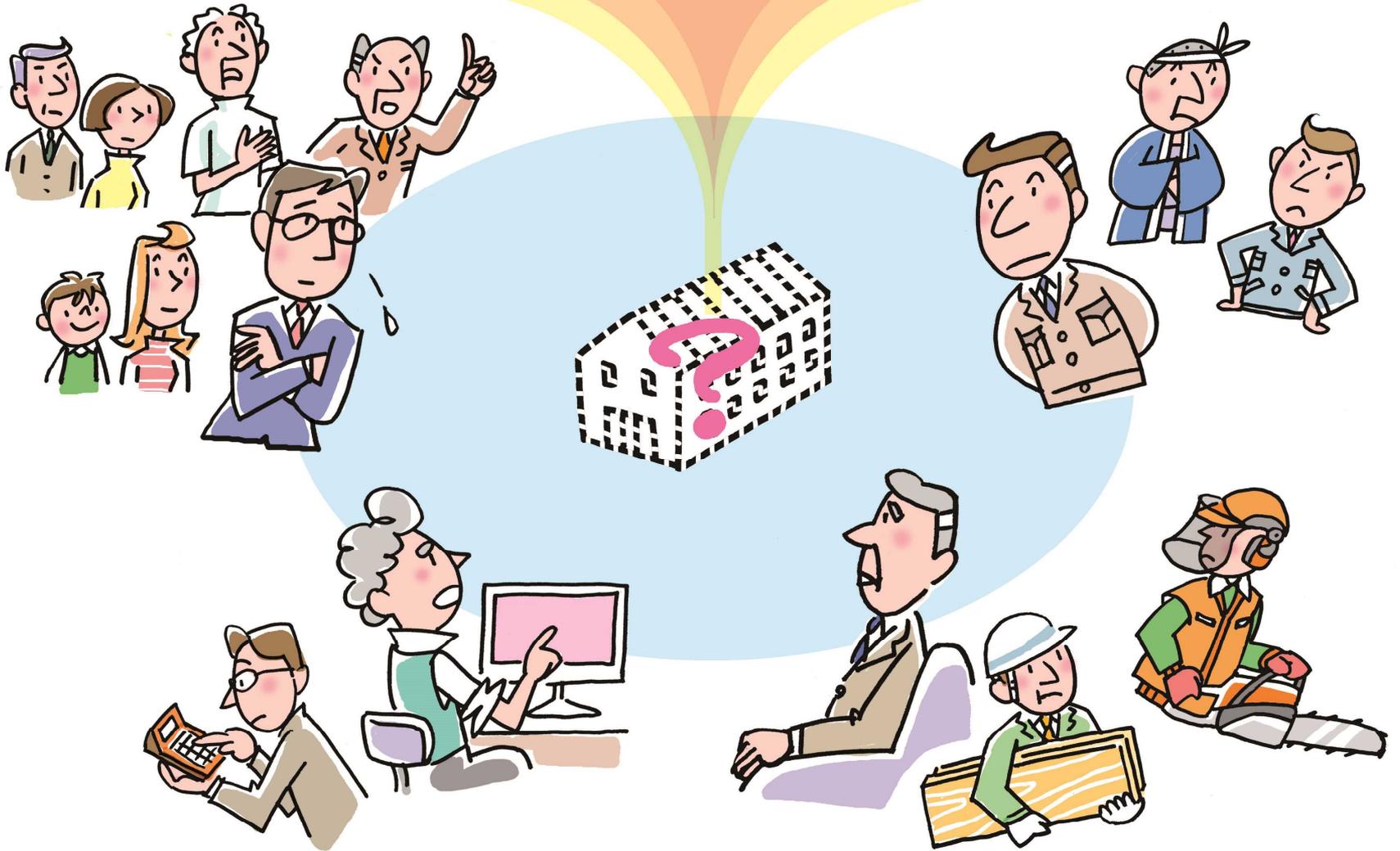




木造建築と一言で言っても???

ミクロな視点から  
建築における木材利用の障害とは？

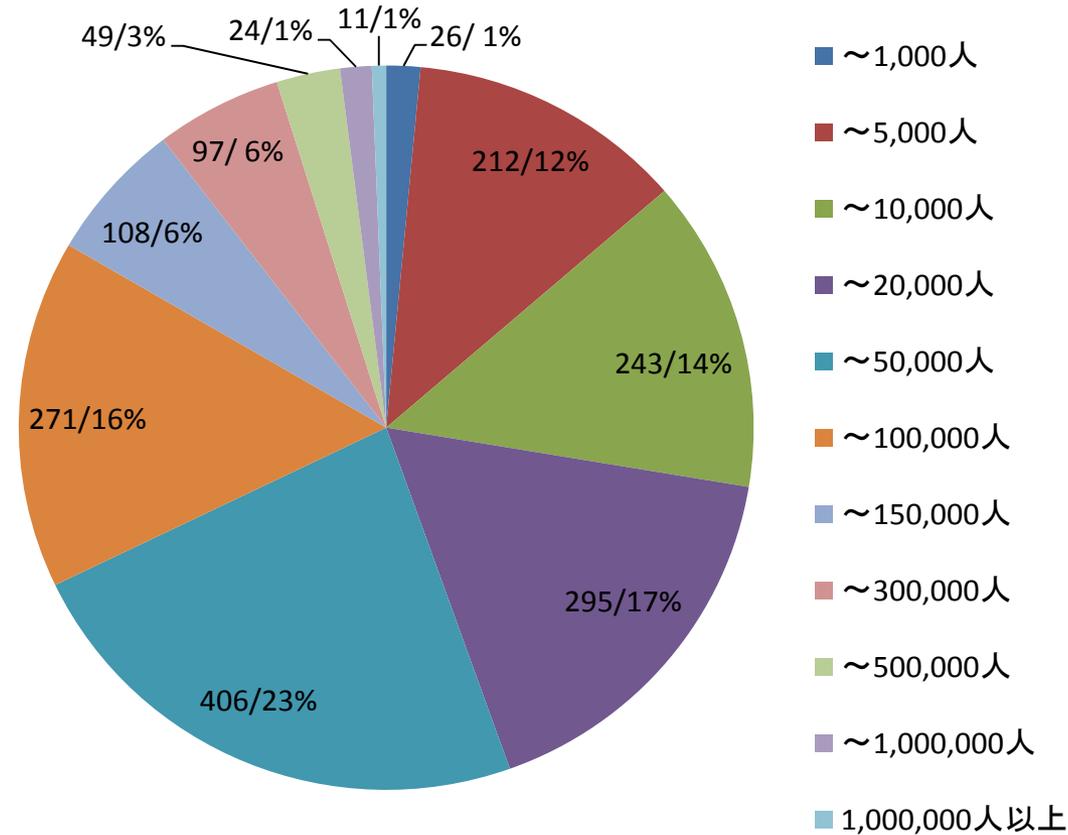
何をつくるの？なぜつくるの？



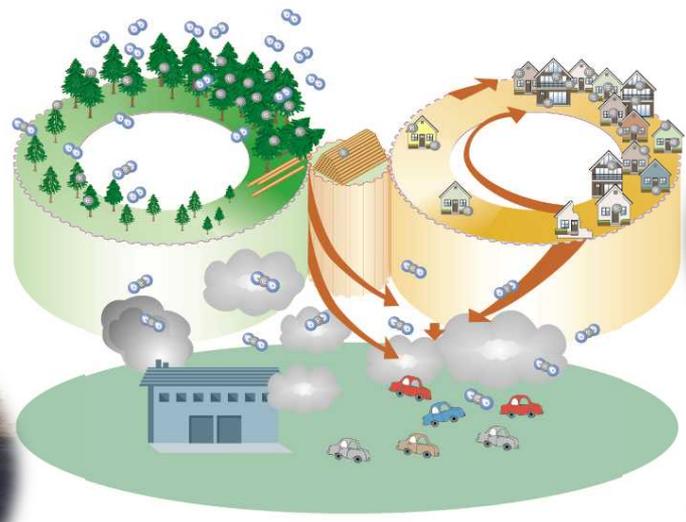
# 人間は変化を恐れる？！

1. 意思決定に必要なのは前例と実績である。
2. 「やるリスク」は真っ先に論じられるが「やらないリスク」は論じられない。
3. 「できない理由」が得意な社員が多い。
4. CCメールなど、読まないメールが大量に来る。
5. 「変わった人」は迫害される企業文化である。
6. 「誰が信頼できるか」より「誰が担当者か」が重要である。
7. 「言いだしっぺ」は損をする。
8. 他責で依存心の強い、なんでも他人と会社のせいにする社員が多い。

# 人口規模別市町村の割合



公務員数の例： 約15,000人の人口を抱える町で70人  
(一般行政職の一般管理)



なぜ建築において木材利用を進めるの？

# よく説明される理由

1. 資源問題・廃棄物問題 ∵再生産可能な資源  
→ 持続可能な文明へ
2. 地球温暖化防止 ∵炭素固定効果  
→ 生物の多様性 持続可能な文明へ
3. 国内の森林の保全  
→ 治山・治水、水源涵養、生物の多様性、  
観光・健康増進
4. 地域の雇用創出 ∵地方の生業 林業・木材産業・大工  
→ 地域の持続可能性
5. 日本・地域の文化の伝承  
→ 伝統的建築物・構法の継承 地域の持続可能性

# 木材利用を進めるためのポイント

1. 地域材にどこまでこだわるか
2. 地域で目標とする木造建築・木材利用のあり方（推進派の中でも意見が異なる…）
3. 経験・情報の蓄積の方法（役割分担・各分野でのキーマンの育成）
4. 利用者（住民）への説明と理解をどう進めるか
5. 木材利用に関係する他産業（観光・林業・農業）とのビジョンの共有化のあり方
6. 顕在化しない思いへの対応（抵抗勢力？）

A photograph of a forest path. The path is a narrow, light-colored trail that winds through a dense forest. The trees are tall and thin, with their trunks creating a vertical rhythm. Sunlight filters through the canopy, creating a dappled light effect on the path and the surrounding greenery. The overall atmosphere is peaceful and natural.

ご静聴、ありがとうございました。